



造血幹細胞移植後の 復職就労のための ハンドブック



大阪公立大学医学部附属病院
造血幹細胞移植推進拠点病院

職 場 担当様へのお願い

.....

_____さまは、移植を受けてから____年____ヶ月が経過しました。現在、____（ヶ月・年）に____回のペースで通院が必要な状態です。特に気をつけていただきたいこと・ご協力いただきたいこととしましては以下の通りです。

☐ 必要な感染対策：マスクの着用・手洗いの徹底・
こまめな換気

☐ 時短勤務の必要：なし・あり

（ _____ ）

☐ その他：

医療機関名

主治医名

連絡先

目次

1	はじめに	2
2	造血幹細胞（骨髄・末梢血幹細胞・臍帯血）移植とは	3
3	復職や就労への思い	6
4	復職や就労が妨げられる要因	7
5	復職や就労のために必要な支援について	8
6	最後に	10



近年、移植治療の進歩とともに治療を受けた患者さまの長期生存者数が増加していることから、退院後の生活の質（QOL）の向上や就労・就学支援などの退院後の支援が注目されています。一方で、移植後の患者さまは、治療によって見た目は元気に見えたとしても、体力の低下や再発の可能性、感染の危険性など退院してからさまざまな困難を抱えています。

この冊子は、復職・就労を通して社会復帰を目指す移植後の患者さまのために、病院とお勤め先とを結ぶためのひとつの手段として作成いたしました。患者さまの身体や心の状態に対して理解を深めることや、復職・就労支援を行う上でご活用ください。



造血幹細胞とは骨髄の中で血球を作り出すもととなる細胞です。この細胞は、骨髄という骨の中心にある組織の中で盛んに細胞分裂を繰り返し赤血球、白血球、血小板などの血液細胞に成長していきますが、白血病などの骨髄の病気になると正常な血液細胞を作ることができなくなります。

患者さまの腫瘍細胞を抗がん剤や放射線治療によって減少させ、健康な人（ドナー）から提供された造血幹細胞を患者さまの骨髄に根付かせることで、病気を根本的に治していく治療を造血幹細胞移植といいます。

造血幹細胞移植には、移植する細胞によって①骨髄移植、②末梢血幹細胞移植、③臍帯血移植に分類されます。

移植後にはドナー細胞が患者さまの臓器を異物とみなして攻撃する過剰な免疫反応（**移植片対宿主病 = GVHD**）が起こる場合があるため、免疫反応のコントロールが必要となります。さらに、移植後は免疫機能が不十分なことから、通常では問題にならないウイルスや菌によって感染症を起こすこともあります。

（参考）日本骨髄バンク「骨髄・末梢血幹細胞移植とは」

<https://www.jmdp.or.jp/recipient/info/about.html>

がん情報サービス「造血幹細胞移植」

https://ganjoho.jp/public/dia_tre/treatment/HSCT/index.html



日本骨髄バンク
「骨髄・末梢血幹細胞移植とは」



がん情報サービス
「造血幹細胞移植」

つまり、移植治療により患者さまは、

- ① 抗がん剤による身体への侵襲に加え、過剰な免疫反応や感染症のコントロールが必要となることから、入院期間が長期化し**体力が十分に回復しないまま退院となるケースが多い**です。
- ② 免疫力の回復には、移植後 1 ～ 2 年がかかると考えられていることから、患者さまは退院後も**過剰な免疫反応（慢性 GVHD）や感染症を起こす可能性や、再発のリスクを抱えている状態**にあると言えます。

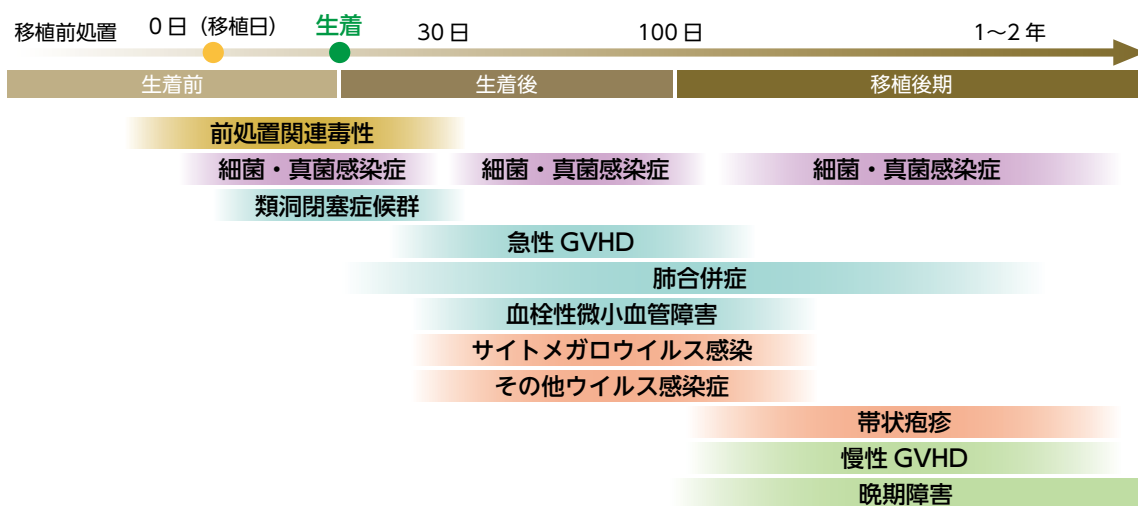
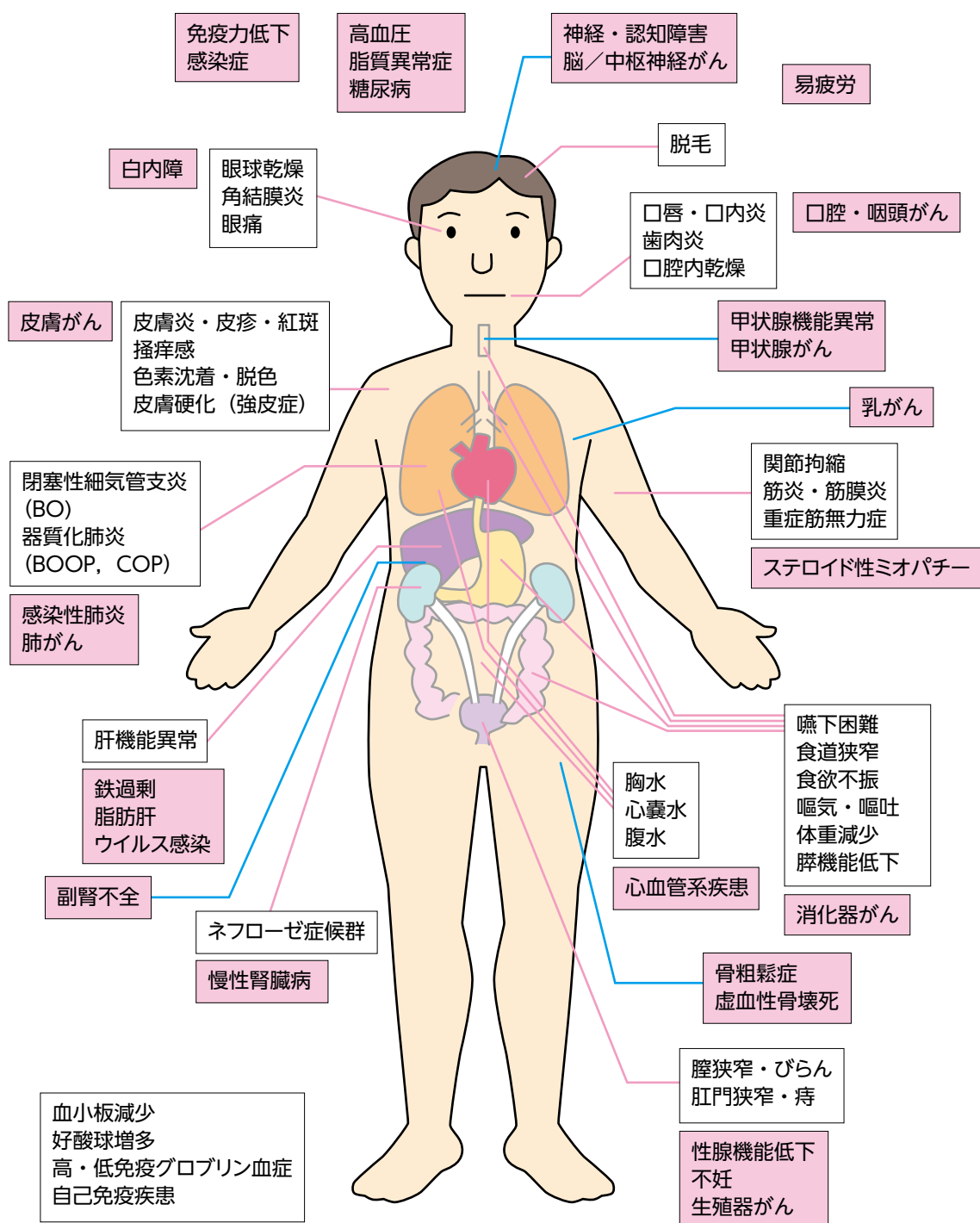


図 1. 移植合併症の出現時期

（引用）国立がん研究センター「がん情報サービス」HP より一部改変



※ は慢性 GVHD の症状

※ は慢性 GVHD 以外の晩期合併症

図 2. 慢性 GVHD の症状とそれ以外の晩期合併症

移植後の患者さまは、退院後 1 年を経過した頃から復職・就労する方が増え始めます。

大阪公立大学医学部附属病院の患者さまを対象とした移植後のアンケート調査からも、復職や就労を希望される方の割合は全体の 65%、そのうち実際に就労されている方は 57%という結果が得られました。

また、移植治療はその過酷さから患者さまには十分な身体機能が備えられていることが必要とされるため年齢の若い患者さまが多く、実際にアンケートに回答された方の年齢も平均 45.5 歳と、十分に就労可能な年齢にあることが言えます。

移植後就労を希望しますか？

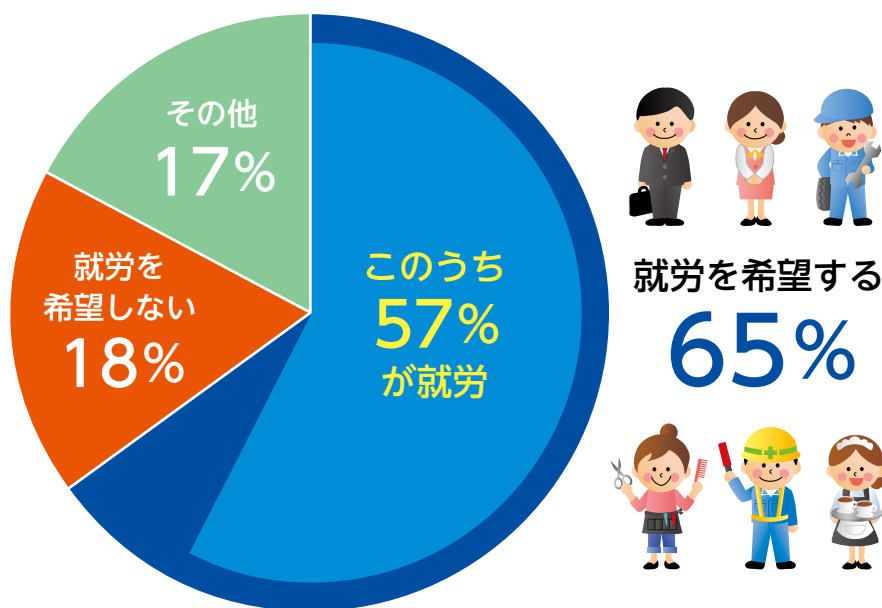


図 3. 移植後の就労希望について

しかしながら実際には、移植後に復職された方のうち 3 割の方が主に身体的な要因を原因として離職してしまうことが報告されています。

移植後調査からも、「合併症の症状により日常生活に影響がある」と答えた方は、全体の 4 割を占めており、身体的な不調を挙げる方が決して少なくないという結果が出ました。

中には再発により、再度入院治療が必要となる患者さまもいらっしゃいます。



図 4. 合併症による身体的な不調

復職・就労されるタイミングとしては、退院後 1 年を経過してから増え始め 3 年目にかけて更に増えるとされています。移植後調査においてはこの間の通院頻度として、2 か月に 1 回ペースの回答が最も多かったですが、次いで多かった回答が 1 か月に 2 回ペースであり、通院の頻度に関しては個人差が大きいことが分かります。

また、全体の約 3 割の患者さまが、再入院を経験されていることなども復職・就労を妨げる要因であることが考えられます。

(参考) 黒澤彩子 同種造血幹細胞移植後の就労に関する実態調査

第 44 回日本造血細胞移植学会総会プログラム抄録集 246 頁

LTFU ツール全国版 移植後就労支援リーフレット

https://www.jstct.or.jp/modules/facility/index.php?content_id=37#04

『2. 造血幹細胞（骨髄・末梢血幹細胞・臍帯血）移植とは』の項目でお伝えした通り、患者さまが復職・就労するに当たり大半の方に共通して不安材料となり得るものが、〈体力の低下〉と〈感染症のリスク〉であると言えます。

したがって、仕事内容でいえば事務作業などのデスクワークの方は比較的早く復職されています。職場の環境としては、屋外の建築現場・電気工事や配管作業などの粉塵や埃の発生する環境、同じく建築現場や林業・製造業など外傷の危険性のある業種では、体力的な不安に加え感染症のリスクが高いと言えます。



また、感染リスクの高い人（小児・老人など）や動物と接触する機会のある職種も注意が必要です。



上記のような職種の方は特に復職の際に上司・産業医・両立支援コーディネーターなどと相談しましょう。

ここで、実際に退院後の患者さまが受けられた復職・就労支援についてご紹介します。



移植後のため重労働でなく
デスクワークを希望し
その通り配属してもらえた



通勤ラッシュ時間を
避けて時差通勤ができた

時短勤務から段階的に
勤務時間を延ばしていった



通院のための
休みや早退を
配慮してもらった



部署を異動し事務職で
1年間勤務後元の部署に
戻ることができた



感染症のリスクを
踏まえ内勤にして
もらえた



最後にお困りの際のお問い合わせ先と、就労支援に関するウェブサイトをご紹介します。

この冊子が、移植後の患者さまをサポートされるお勤め先のみなさまを手助けすることができれば幸いです。

この冊子の内容についてのお問い合わせ先

大阪公立大学医学部附属病院



造血細胞移植推進拠点病院ホームページ
<https://isyokukyoten-ocu.jp/>



Eメール
gr-med-isyokukyoten@omu.ac.jp

造血幹細胞移植相談窓口

☎ 06-6645-5902

就労支援に関するウェブサイト



産業保健総合支援センター

<https://osakas.johas.go.jp/>

厚生労働省・長期療養者就職支援事業について 事業主さま向けパンフレット



「がん患者等の採用と定着のススメ」

https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11600000-Shokugyouanteikyoku/cyoki_320.pdf



「長期療養者の採用に向けたノウハウ」

<https://www.mhlw.go.jp/content/11600000/000768368.pdf>



「事業場における治療と仕事の両立支援のための
ガイドライン」

<https://www.mhlw.go.jp/content/11200000/000912019.pdf>

参考文献

日本造血・免疫細胞療法学会「患者さんの情報 10-4 復職労支援」
https://www.jstct.or.jp/modules/patient/index.php?content_id=31

ガイドライン

① GVHD 第5版

https://www.jstct.or.jp/uploads/files/guideline/01_02_gvhd_ver05.1.pdf

② 移植後長期フォローアップ

https://www.jstct.or.jp/uploads/files/guideline/04_01_ltfu.pdf

MEMO

Handwriting practice lines consisting of 20 horizontal dotted lines.

監修

日野 雅之

編集

平田 真由美

西川 真紀

若松 祥代

前沢 有香

梅本 由香里

田中 里苗

佐藤 朱律

執筆

大亦 由紀

2023 年 3 月 16 日 第 1 版

造血幹細胞移植推進拠点病院
大阪公立大学医学部附属病院
血液内科・造血細胞移植科

